

早期発見で放射線治療のみも

和歌山病院市民講座「肺がん」

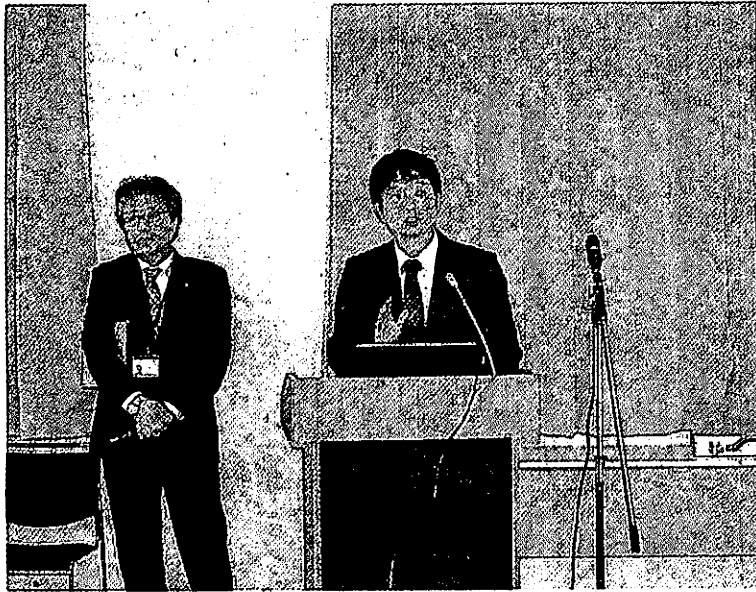
美浜町和田、独立行政法人国立病院機構和歌山病院の第13回市民講座は19日、同院新病棟で開いた。一般住民ら約60人が肺がんについて知識を深めた。

同院放射線科照野主任の大西康彦さんが「肺がん検診」検診を受ける本当の意味とは、「呼吸器内科医師の東祐一郎さんが「肺がんって、どんな病気？」をテーマに語った。大西さんは、部位別のがんによる死亡で肺がんが最も多いことを話し、放射線治療を説

明。特徴として手術と同様にがんのある部分だけ治療し、高齢者や合併症の影響で手術ができない場合にも治療できることなどを挙げ

た。肺がんでの放射線治療では、非小細胞肺がんなどで行う定位(ピンポイント)照射を紹介し、「一般的な放射線に比べて腫瘍周辺のダメージが小さく、ミリ単位で修正しながらCT撮影し放射線を当てることができ、手術と比較して遜

色ない生存率」と効果を説明。最後に「肺がんをCT検診で早く見つけることができれば手術をしなくても放射線治療だけを行うことが可能」と早期発見の大切さを訴えた。



肺がん検診で話す大西康彦主任